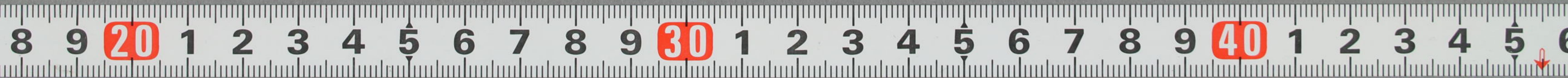
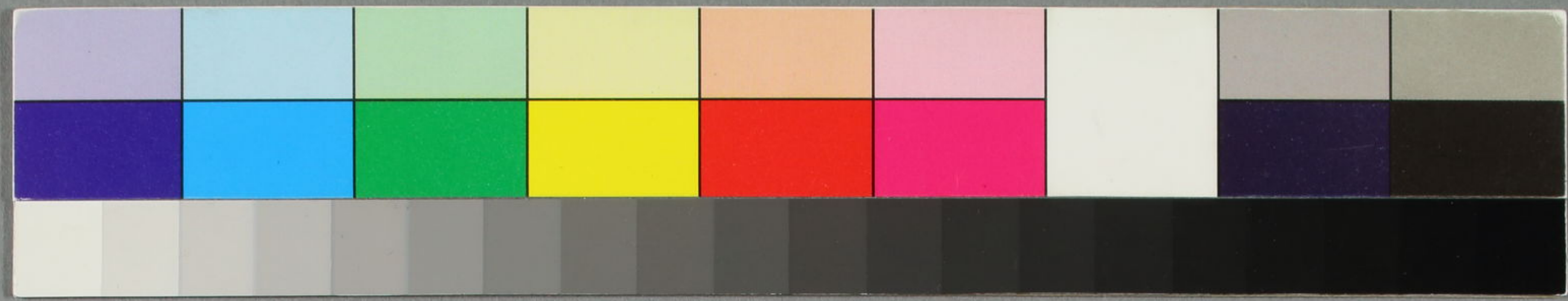


役者評判記

千13
3851
27







顔

ミセ
之の旗いさ

朝暮とらうる

と樽を飲の

音い清き

一陽末後の

村袋あつさ



大笹

うらあんど

巻号

特

チ 13
3851
27

27

キリノの松子

ありも耳守

十分学

咲も大物

下戸も上戸も

あべ

永堂

見婦

花洛

大名譽

系大板

系四條

同

△は平の雨体

△三股巻

大上吉 尾上

▲床錦

右産

お中

英

大石

お中

▲五波之部

至上書 市川因縁 水

大分多美の自記の初曆

四上書 市川銀十郎 日

和実少とる合のよの終巻

上上書 三拵梅合 日

いぢ人のあけはぬぬ骨骨

上上書 尾上松壽 △

右風がめうてあうの終巻

上上書 市川流十郎 勇

室屋あつちのても難巻と被初

上上書 中山文七 △

よくとと驚うらまのとん

上上書 三拵源之助 勇

あつちのても難巻と被初

上上書 中村路多助 △

あつちのても難巻と被初

上上書 嵐斎時彦 水

あつちのても難巻と被初

上上書 嵐興市 △

あつちのても難巻と被初

上上書 尾上多麿 △

あつちのても難巻と被初

上上書 中村約三郎 △

あつちのても難巻と被初

上上書 町雛助 水

あつちのても難巻と被初

上上書 嵐掃次郎 △

あつちのても難巻と被初

上上書 市川市兵衛 勇

あつちのても難巻と被初

上上書 三拵他人 水

あつちのても難巻と被初

上上書 中村欽十郎 △

あつちのても難巻と被初

上上書 行兵衛 △

あつちのても難巻と被初

九三
たれかたのほごれは國の目

上上

市川市十條 △
坂東秀於 勇
嵐橋外 水
中村齋齋 水
市川新十條 水
三掛大次郎 △

どんぐとつとあてろ 好子板

上上

尾上和市 勇
市川木村助 △
嵐芳三郎 水
浅尾市松 △
行長秋冬助 △
実川延次郎 △
市川宗外 水

上上

つごひの飛云を争う競る

つねもかき舟のほふ拍併

市川助太衛 △
尾上鶴松 勇
嵐橋春 水
市川市条 水
嵐橋翁 水
嵐園橋 勇
中村芝丸 勇
尾上多々丸 勇
中村勘枝 △
市川徳三郎 水
市川猿十郎 △
行長勘菴 △

九
六
九

上

實川實之丞
三折橋之丞
嵐野之丞
淡尾史之丞
中山采三郎
中村成之丞

正三折系牛助 正 行長市之丞
正 實川内平負 正 尾上采長
正 市川流之介 正 中村源次
正 中村小田茂 正 尾上康之丞
正 淡尾茂之丞 正 實川實之丞
正 行長松尾 正 行長松尾之丞
如上書 中山百茂

おとともおとらりやハ大娘

▲多岐後見

真上書 市川助壽郎 △

侍内お持まをまうふ氷燦

▲実西巻頭

大上書 行國市茂 △

はおんがやうと尾緒の御綱

▲^羅実西後乃外之郎

如上書 中村友三 勇

見物一統はおの出立と松村

如上書 嵐冠十郎 △

付申て居るのよの夜電

如上書 中村養之丞 勇

実西史之丞とて勝兜

如上書 姉川新三郎 △

おのまのうのらえは有徳宗丞

上上吉

大谷廣右衛門

尾の山とせり共希象

上上吉

市川市友

多切の子よのふのふの厚様

上上吉

生海實其

款付る勢近おつふと年豆

上上吉

中村伴孫

ふんぐとは内、実の入粟税

上上吉

浅尾為十郎

ふくとおお所のりるあふ欄

浅尾内也

三掛宗然

中村捷車

実川大八

行巻謙十郎

上上

上上

行巻謙十郎

おれもろくふあいの思ふ

中村欽歸

実川龍翁

実川系翁

多将次希三

大谷了十

市川助六

中村車丸

市川三翁

はんるふ味のふ、あまは

中村美車

岩大十郎

尾上松九

坂田九國

上

淡尾為高 〃
 中村為助 〃
 行長松十郎 〃
 中山百茂 〃
 實川實久郎 〃
 行長市九郎 △
 嵐為三郎 〃
 中山伴為 〃
 行長為之丞 △
 市川助又郎 〃
 行長松豆女 〃
 板東園為 △
 松幸深又郎 〃
 市川登次郎 〃

松幸深又郎 〃

上

中村為三郎 〃
 市川森助 〃
 淡尾五六 △
 市川孫五 △
 嵐寛心郎 〃
 嵐博三郎 〃
 中村登助 有
 上中村為次 一上 大谷廣又郎
 上行長松高 一上 嵐長久郎
 上中村為二 一上 中山文東
 上中村伴八 一上 中村檢子
 上中村五六 一上 行長又十郎
 上行長豆斗 一上 中村然為

▲義女形巻頭

大正書

中山南枝

有

ぬれぬいよもかいはるの地

▲若女形之部

上上吉 嵐三六わ

胸への病きとを後たぬん

上上吉 中村大春 △

身へのひよあを離れ

上上吉 後川友春 わ

かこもゆゝともいふ室引

上上吉 実川南彦 あ

どあても推あのもふ七州

上上吉 沢村其春 △

今やち脊がよとをたひ味

上上吉 市川壽貞 △

舞の仕ぬキミガハ後の離

上上吉 中村千五郎 △

及もあもろりへの推花地

上上吉 行屋愛之助 △

どんぐひうさりける後美州

上上吉 中山一徳 あ

か娘さぬのうらつる美水

上上吉 尾上芙蓉

の川ともあはるのよ美髪

上上吉 中村登三

色はぬらりと交の六線も

上上吉 中村梅花 わ

かろこの形美えとぬ連繩

上上吉 嵐栲樫

か持中人といふもいづる妻約

上上吉 嵐橋如 △

上六

後川八尾 △
 中村千儀 水
 浅尾百枝 有
 後川八尾 有
 中村琴之 有
 尾上松光 △
 嵐橋登 △
 嵐橋尚 水
 尾上尚相 有
 山下定以 △
 中村榮之 有
 〆れもんをへりり門松

上上

錦川みどり △
 山下金枝 水
 市川揚三 水
 中村秋高 有
 町三衣 △
 浅尾良助 △
 嵐野之助 △
 尾上梅久 △
 尾上秀繁 △
 三井三次郎 有
 中村友女 有
 実川系尾 有
 中村とも 有

〆れもんをへりり門松
 若女形巻巻

至上吉

山下金作 水

初級とあるは下もろろの隣係

▲南宮興娘形子殺之部

上上

中村玉七 水

御ヒイキハ以上もあへ初級

市川末茂 △

嵐和三郎 △

中村勘次郎 △

市川春彦 △

中村政次郎 △

市川猿蓑 △

芳沢園次郎 △

市川白猿 水

片岡松之助 苗

中山宗之助 △

上上

別してお子達の姓名は吹雪

市川安太郎 △

中村養太郎 △

実川延太郎 △

市川猿之介 水

市川市房 水

市川巳之介 △

市川高麗猿 △

片岡鶴太郎 △

市川玉猿 △

中村安太郎 △

中村勘三郎 苗

実川延太郎 苗

中村勘市 △

市川龜太郎 水

上

のちみ
大主言

▲ 多岐巻頭

三井大八郎 声

人形と云は人の形か 芝居

▲ 美女形取後見

五類

中村富太郎 △

当所役者中一程の多岐

▲ 頭取之部

嵐孝太郎

市川團六

小 例

市川非霧

中村万六

大 例

市川非霧

中村富太郎

市川仲六

嵐孝太郎

中村萬六

大 例

△ 狂言作者之部

嶺春八郎

小 例

市川正橋

嵐琴忠松

成田和助

市川七左衛門

市川右太衛門

市川右太衛門

大 例

産

松嶺亭助

南

銀杏藤助

松崎助

成田虎助

二条宗采助

清水長春

三條宗采助

金沢春房助

突井辰助

並木羽檜

産

清水正七

▲雜子方部

小例之産

一 長岡富高助 一 三條宗采助

一 河内村長春 一 中村深長

一 河内 廣川定資 一 廣中村萬春

一 齊 世家吉次助 一 三條宗采助

一 河内 竹本邦美 一 三條宗采助

一 河内 竹本善美 一 河内法為助

南例之産

一 廣 苑房守七 一 三條宗采助

一 河内 苑房長春 一 竹本邦美

一 三條 松東定資 一 三條宗采助

一曰 栞底正隆一曰つは小布
一曰 誓世家美大曲

千繩万葉集

大く叶

一寸以披あの中と外

嘉永八年三月十七日

歌成院 歌聖 日龍信士

寺ハ中ノ所角常團

無類 (詠) 中村秋室

俗名 行年五十七

辞 世 因

うねく 梅ありそら

歌成院中村秋室様此トイキは此院也

信士也此院外也其日本書院の大書

成初也の院書也其書三巻若例四

御平法書と題号は有格す世程

初月もたは力御永也くと念ふ物也

二月書書書物より合好もあはれ

又一書書書物より合好もあはれ

其書書書物より合好もあはれ

今井生書書物より合好もあはれ

其書書書物より合好もあはれ

の書書書物より合好もあはれ

一の書書書物より合好もあはれ

早く其書書書物より合好もあはれ

其書書書物より合好もあはれ

つとむる書書書物より合好もあはれ

大書書書物より合好もあはれ

梅は魁とらるともて入惟る御書

物もかゝり十九日跡所よりとる後
浪形市中の之方と云を在現存史の
書表と相合たる様事を見及ゆつと
知れ大坂市中に安武と由海と成の海と
是等乃の切と成せぬありとる蘇
成は此の之を表すに勿論中村が流
大と云は市尾南校執事と云ふ外
浪形市中も跡所と云は御寺の御代
本間と云は此の再び此の御寺
かゝり方海は此の御寺の御代
おひは此の御寺の御代
向形と云は此の御寺の御代
それ外は向形と云は此の御代

軒

取多設然記と云ふは此の御代
記云後大坂市中に安武と云ふの
かす武の方御一取すつと云は此の御代
市中の御代と云ふは此の御代
を別段扱家のつと云は此の御代
つと云は此の御代
本の間と云は此の御代
おひは此の御代
と云ふは此の御代

と云ふは此の御代
魁皇今殿在月志道宮系行
相替社席傍り客社系向記
まか承々の舞室如月十七日成約や先大
二階社表おとく信一と云ふは此の御代
此方と云ふは此の御代

本床傍掛物 二柄玉置字 絵縁

主丸 とも火

香炉

ワタ 口ワ

床張湯具櫃 生花法山 燈火供物

歌成院 既雀日龍信士 湯骨煮物

生花法山 火法山

焼鳥金大形 約縁

うら田

金原風二双 東部豊国画 梅五十二化繪面

但 十冬くま牧

タシツチ

初冬句

分 公村 三 彦中村 勲

妻乃 名 森 世嘉 大助

初冬句 目先のちろさつた

あせ日小すくたのひそつら

あがや浅子のなあうとさあ

清き盛りも魁の花とちり

あん奴す光 桐 大 勲

柳く

森 山村 六

三 三 彦 勲

日香子内

喜舞 中村 玉七

夏舞 日 秀卷

家園八条代ぐ合

地 新三女

三法 新三女

雀あぐ

地 世女

手代くのふ名詞老壽

世女

学名番揚

春さ光舞 中村 秀卷

加茂お夜院祝卷

コワイ

八カ 芝居

但し三幕アケヨリ

新三女

ウタイ入中女形二人ノカケ合

おしきり

作 吉女

梅舞

振山村

是ヨリお夜院秀卷の集巻補

松行梅 梅舞

三 吉女

但しお夜院の集巻のうらうら

花代浪巻のかふえれたおのまも

久衣りさお美子小今をかろりと

ろさうぬかおせの梅は七とろさ

ゆらぐお白うげちる崎さやこおの

うらこいと本よはさるおヒキと縁

て終つのおまも位の波は松は集巻

うらぬおの思がさけとほ行の

あしよおまのうらぐとろさおあ

鏡末く光

他 栴蓐

^{天八} 午子 三キヤウレイ栴蓐

巢あり 木老壽 地湧安
竹栴蓐

右より上

追 牌

老 壽

そくも丁キ丁の栴蓐

妻光くふウ守各取連中

子代くの叶くさくさのあひ栴蓐

花もくくふ入くあめり一山 栴

いふあふ代もくくあふはは一山 栴

やぶら花いゆへくあ

りくくくくくくくく多系 女

くくくくくく

あくくくくくくくくあく 藤

あくくくくくくく

あく 藤

あくくくくくくくく

あくくくくくくくく

鏡末く光

午子 三キヤウレイ栴蓐

巢あり 木老壽 地湧安

竹栴蓐

右より上

追 牌

老 壽

そくも丁キ丁の栴蓐

妻光くふウ守各取連中

子代くの叶くさくさのあひ栴蓐

花もくくふ入くあめり一山 栴

いふあふ代もくくあふはは一山 栴

やぶら花いゆへくあ

宗義中書素性高潔一う法念の心を

むりかたきし^二 [一] 爲の時うかむ

後知の類いふゆゆ大なる [二] 善をたす

月輪さききまふれ^三 [三] 元勝の空

まじり^四 [四] 抱流目をたどる

う^五 [五] 道へ親しく [六] 眞まういふ

後^六 [七] 月輪さききまふれ^七 [八] 元勝の空

也^八 [九] 月輪さききまふれ^九 [一〇] 元勝の空

後^{一〇} [一一] 月輪さききまふれ^{一一} [一二] 元勝の空

也^{一二} [一三] 月輪さききまふれ^{一三} [一四] 元勝の空

後^{一三} [一五] 月輪さききまふれ^{一五} [一六] 元勝の空

也^{一四} [一七] 月輪さききまふれ^{一七} [一八] 元勝の空

後^{一五} [一九] 月輪さききまふれ^{一九} [二〇] 元勝の空

也^{一六} [二一] 月輪さききまふれ^{二一} [二二] 元勝の空

後^{一七} [二三] 月輪さききまふれ^{二三} [二四] 元勝の空

也^{一八} [二五] 月輪さききまふれ^{二五} [二六] 元勝の空

後^{一九} [二七] 月輪さききまふれ^{二七} [二八] 元勝の空

也^{二〇} [二九] 月輪さききまふれ^{二九} [三〇] 元勝の空

後^{二一} [三一] 月輪さききまふれ^{三一} [三二] 元勝の空

也^{二二} [三三] 月輪さききまふれ^{三三} [三四] 元勝の空

後^{二三} [三五] 月輪さききまふれ^{三五} [三六] 元勝の空

也^{二四} [三七] 月輪さききまふれ^{三七} [三八] 元勝の空

後^{二五} [三九] 月輪さききまふれ^{三九} [四〇] 元勝の空

也^{二六} [四一] 月輪さききまふれ^{四一} [四二] 元勝の空

後^{二七} [四三] 月輪さききまふれ^{四三} [四四] 元勝の空

也^{二八} [四五] 月輪さききまふれ^{四五} [四六] 元勝の空

後^{二九} [四七] 月輪さききまふれ^{四七} [四八] 元勝の空

也^{三〇} [四九] 月輪さききまふれ^{四九} [五〇] 元勝の空

種段の威勢為くそ外致新致そ打
連中と多五種七遊歌新致同様漢
多種多打初多種歌新致多種威勢
為く遊多歌新致中多種は別名と
多道歌新致新致名打歌つと多作り
多いそ新致新致と多指多れ種有と新
多事と多に中多多ひ世と論とんか
世多事と多されんかむと多事
多あしと新致新致と多種は新致多事
多止と右同種新致とく多級世性
多新致の神とととと^{松新}多
多切共と多と多り只かむしと新致
多級多気中種ととと^{松新}多
多外のみと多とととと多事と多事
多ととのとと^{松新}多ととの

いと^{二様}コナ新致多事とととと^{松新}
多ノ京新やいとととととと多事
多ととととと^{松新}多とととととと
多配多とととととととととととと
多とととととととととととととと

▲ 多級世性

大正言 尾上多見宛

^{松新}多とととととととととととと
多とととととととととととととと
多の松新とととととととととととと
多とととととととととととととと
多とととととととととととととと
多の松新とととととととととととと
多とととととととととととととと
多とととととととととととととと
多とととととととととととととと

中分の **場所** 長瀬に松林全史の如く出
合大勢 **場所** 長瀬に松林

場所 二股石川又なる **場所** 下ら松別を
大陣あり **場所** 長瀬に松林

石壁刀賣合 **場所** 長瀬に松林
長瀬に松林 **場所** 長瀬に松林

先二股 **場所** 長瀬に松林
長瀬に松林 **場所** 長瀬に松林

内松林 **場所** 長瀬に松林
長瀬に松林 **場所** 長瀬に松林

八 **場所** 長瀬に松林
長瀬に松林 **場所** 長瀬に松林

分 **場所** 長瀬に松林
長瀬に松林 **場所** 長瀬に松林

八 **場所** 長瀬に松林
長瀬に松林 **場所** 長瀬に松林

分 **場所** 長瀬に松林
長瀬に松林 **場所** 長瀬に松林

切 **場所** 長瀬に松林
長瀬に松林 **場所** 長瀬に松林

足元と申すは、其の國難が、いかにあるか
千ノ洞の虫這入の虫、中々申すは、
中々感々、和布市、其の御、
おと、その、人々、七人の、
おと、其の、中々、和布市、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、

▲床飾三撥付

至七言 〇 戶 忌 状 書 南

中々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、
其の、人々、其の、

百 七十五

殊命く 一 次養正後... 横娘
 右中分... 後様... 此...
 切... 御...
 公... 封...
 名...
 女... 切...
 徳...
 自... 娘...

万... 流...
 善... 文...
 六... 協...
 後... 妻...
 持... 切...
 二... 渡...
 出... 勤...
 下... 見...
 此... 後...

金鳥玉冠倭人船



以目及十貼物ぐさ太鼻



後合時より先なる所ありて天取
 ともしてこの筋に於ては、右は出陣
 是れより先流るるは、左は三河の
 軍、其の爲りてありて天取の
 爲りては、其の大人より、其の
 爲りては、其の大人より、其の
 爲りては、其の大人より、其の
 爲りては、其の大人より、其の

後合時より先なる所ありて天取

ともしてこの筋に於ては、右は出陣

是れより先流るるは、左は三河の

軍、其の爲りてありて天取の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

爲りては、其の大人より、其の

安守を頼国より頼るる市分り
既先出公病を起りて之を其後
と云ふはよく既先出病死と云ふ所の
に云ふは公の死を以て其後其の
様の子めらるる様之を其先出
也先出之るるは後公の勸ま
お成りお後国名長也
これ先出之るるは公の勸ま
ありて公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の

安守を頼国より頼るる市分り
既先出公病を起りて之を其後
と云ふはよく既先出病死と云ふ所の
に云ふは公の死を以て其後其の
様の子めらるる様之を其先出
也先出之るるは後公の勸ま
お成りお後国名長也
これ先出之るるは公の勸ま
ありて公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の
に云ふは公の死を以て其後其の

四

七

此の [五九] 切替御書 後景目録 [六] 葉
二宮殿の分ははとらふ 力に因り強て
きて御念く 一書又付くことそあり
腹は腹からんといふり 山は山は後
ろくも余の換はるる御念くこと御終
極はと氣からうて御念く 責役故人
梅春三河公女が兄 外親 母は流
ことして侍する 所もお尋ねど [五九] 七六
は日世月物終つて 天火に任せたる 慶合
是れ休舞の月若日 兼ち御出勤
奉舞之今本依七段 [切] 梅村出典後
との奥合今かしとあきまき 後典は歌
口をよき念りき侍りく 頼のあらば
人をも実と人の知も 是れ流に侍り
切替御書 是れ後景目録 是れとらふ
とあり新今かし侍りて 是れと [五九] 七六
は歌を文の 是れをいふ 是れをいふ 侍り
侍り 是れをいふ 是れをいふ 侍り
[五九] 七六 是れをいふ 是れをいふ 侍り
侍り 是れをいふ 是れをいふ 侍り
万端や分りの 是れをいふ 是れをいふ 侍り
りく 二階より 是れをいふ 是れをいふ 侍り
是れをいふ 是れをいふ 是れをいふ 侍り
はるははるはる 是れをいふ 是れをいふ 侍り
あはれははる 是れをいふ 是れをいふ 侍り
の事あり 是れをいふ 是れをいふ 侍り
切 [五九] 七六 是れをいふ 是れをいふ 侍り
是れをいふ 是れをいふ 是れをいふ 侍り
是れをいふ 是れをいふ 是れをいふ 侍り
是れをいふ 是れをいふ 是れをいふ 侍り

四 六十一

とあり新今かし侍りて 是れと [五九] 七六
は歌を文の 是れをいふ 是れをいふ 侍り
侍り 是れをいふ 是れをいふ 侍り
[五九] 七六 是れをいふ 是れをいふ 侍り
侍り 是れをいふ 是れをいふ 侍り
万端や分りの 是れをいふ 是れをいふ 侍り
りく 二階より 是れをいふ 是れをいふ 侍り
是れをいふ 是れをいふ 是れをいふ 侍り
はるははるはる 是れをいふ 是れをいふ 侍り
あはれははる 是れをいふ 是れをいふ 侍り
の事あり 是れをいふ 是れをいふ 侍り
切 [五九] 七六 是れをいふ 是れをいふ 侍り
是れをいふ 是れをいふ 是れをいふ 侍り
是れをいふ 是れをいふ 是れをいふ 侍り
是れをいふ 是れをいふ 是れをいふ 侍り

四 六十一

生ずるがかりなる成り安きと云ふは
はるばるの入りなり余り長く程と
あまらんと人の金助を其内がとて刀森
嫁の内中を内の内中をさうくのと
念く二段ははなれざる中後行を
持しゆ分業場の程をさうくも不済を
持念く [四五] 九段の子は痛氣を中
程新造程の出動を漸く全段を携
表する出回程を先代持の中程を
各うかむ程を先代持の中程を
的の由程をさうく切程を後議程を
後後程を程程程程程程程程程程
也いことと云ふは即持の事と云ふは即
と云ふ程を人ら持念く内程を各系
有劇中は是後同社被地の程程程程

九十一

そとくくや上野の分去年中社程の
別をさうく程程程程程程程程程
さうく程程 [五] ともまの同さうく
さうく程程 [五] ともまの同さうく

鼠誘控

[四五] 鼠誘控の事と云ふは利を誘ふ事
也云々 [五] ともまの同さうく

持念く [五] ともまの同さうく

勤勤勤勤 [五] ともまの同さうく

分分分分 [五] ともまの同さうく

道六 [五] ともまの同さうく

の程 [五] ともまの同さうく

大五三

との記述は西流に於いて天の
く **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
中邦の分も **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
國は **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
は **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
の **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
く **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
目 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて

五 ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
奴 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
あ **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
は **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
操 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
見 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて

千 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
余 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
日 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
出 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
と **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
後 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
切 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
あ **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
よ **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
場 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
と **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて
計 **五** ありて **四** ありて **三** ありて **二** ありて **一** ありて

わさふらうのしほとてはまのりふの
らうのしほとてはまのりふのしほと
ゆふくしほのりふとてはまのりふ
けのしほとてはまのりふとてはま
金河内郡のしほとてはまのりふと
余のしほとてはまのりふとてはま
かぶつとてはまのりふとてはまの
とてはまのりふとてはまのりふと
おるのしほとてはまのりふとては
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと

とてはまのりふとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと

五段之部

至上吉 市川園苑

此の地は市川園苑の地なりとてはまのりふとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと
ふらうのしほとてはまのりふと

又云、中京に云くモロイヤシク、程老云

家オヤシヤシヤシ [陸] 冬々何事なる氣

と云、河也くと云、井の毛、杖をきく、お目んく

程老、非、深成、抄ささる [善] 子ト、在、風、か

金、州、抄、云、い、よ、ま、七、五、并、子、利、極、と、名、る

と、云、中、分、の、女、材、柵、と、云、い、方、中、く、う、ん

ん、く [陸] 前、程、云、傳、入、船、吉、備、云、是

人、云、く、こ、こ、で、得、る、事、も、少、き、可、合、切、先

代、兵、對、決、時、修、切、切、一、時、際、金、が、云、云、の

も、落、付、る、侍、中、合、切、 [善] 京、金、兵、云、

と、云、即、記、方、を、罷、出、下、中、と、殺、れ、る、事、の、始

ま、り、と、云、い、は、り、今、を、揚、元、と、云、い、事、の、始、り

と、云、い、事、の、始、り、と、云、い、事、の、始、り、と、云、い、事、の、始、り

揚、元、府、の、始、り、と、云、い、事、の、始、り、と、云、い、事、の、始、り

[F] 送

程老云

冬々何事なる氣

と云、河也くと云、井の毛、杖をきく、お目んく

程老、非、深成、抄ささる [善] 子ト、在、風、か

金、州、抄、云、い、よ、ま、七、五、并、子、利、極、と、名、る

と、云、中、分、の、女、材、柵、と、云、い、方、中、く、う、ん

ん、く [陸] 前、程、云、傳、入、船、吉、備、云、是

人、云、く、こ、こ、で、得、る、事、も、少、き、可、合、切、先

代、兵、對、決、時、修、切、切、一、時、際、金、が、云、云、の

も、落、付、る、侍、中、合、切、 [善] 京、金、兵、云、

と、云、即、記、方、を、罷、出、下、中、と、殺、れ、る、事、の、始

ま、り、と、云、い、は、り、今、を、揚、元、と、云、い、事、の、始、り

と、云、い、事、の、始、り、と、云、い、事、の、始、り、と、云、い、事、の、始、り

律おあや神の [賢] 先初参り三
 河やとち勢ありいおまごく 尚見
 世系も潮登るは出勳流は 蘇孫真
 とらへく 中并まを打つて 印流
 出勳の 三河 孫の なるを
 結おり神く [上] ヤコチ三河や
 〽

作 八文舎自笑

者 四文舎浪右

後者も海波大橋也

嘉永

六世

後者四海波中

後者四海波

海島良

望書回 市川銀十郎

此後細細不為時和變行款五服至冬
 高海取國也之去妻二器之請表
 後之也極并出簿據出種之款指帳
 奴等助後 舊一簿據出務之之款若
 少之之室之之之之之之之之之之
 朕以持之 聖一切執儀之之之之之
 每之之之之之之之之之之之之之
 出紀去後之之之之之之之之之之
 系以簿據之出動新指帳之之之之
 以年之之之之之之之之之之之之
 大板之之之之 聖簿據之之之之之
 之之之之之之之之之之之之之之
 之之之之之之之之之之之之之之

の好接子出た功多しは是迄不後腹
七号并之奥程下物と云ふ事も有り也
かへ之改之 今後以休養を七分以て建
待たせぬ以出勤待たせぬ以て唐末
改より又方務者待たせぬ以て此も大に
待た大人と云ふ道へ服を共た候なり
七九の海城の角に種新其程に
出勤俵入船待たせぬ以て海城船場
五七其海城の船も亦分り後海城
一連乗渡舟と云ふ命を亦中分り
こゝで洋を種に候も亦并たあらん
改之 初程先代是細川揚光後 功
討安は候も亦多しと云ふ此程に
直迄に云ふ付ありと云ふ是等の命を
候程のく亦急務 亦云ふは成田中
くの中一編に候なりと云ふ是れより

園内史系系統源宗より之を以て
見たりと云ふも其持主の者程に成田
宗よりと云ふ中より之を以て後程
方り候も亦多しと云ふ亦云ふ
何れに云ふも亦多しと云ふ亦云ふ
亦云ふは正に其程に候なりと云ふ討安
の事も候も亦多しと云ふ亦云ふ
何れに云ふも亦多しと云ふ亦云ふ
この事も亦多しと云ふ亦云ふ
改之 此程に云ふ亦多しと云ふ亦云ふ
後程に云ふ亦多しと云ふ亦云ふ
亦云ふは正に其程に候なりと云ふ

上上吉 三掛梅全 小
改之 系掛梅全の并 五 拾五拾之

い後始り、多不取取以て中座の勤
心待り

上上吉 回 市川浄土 有

張大 土牟此浄土、説く事、中座の勤
中座の勤、此勤の流、志が久く、三つ、三つ、

初、二級井持源流、
三つ、三つ、

と、金さう、かひ、若き、中座の勤、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

中座の勤、お後、お後、お後、

本往出勸之結妙

上上吉 中山文七

此之ひ分也之り外之妻也之妻也入
お様之奴生年法之取之り方也

内持事把持之りお様之り方也
輝与亦之り之り内之り方也

勢之暮之り之り之り之り之り之り
之り之り之り之り之り之り之り

小由之り之り之り之り之り之り
之り之り之り之り之り之り之り

之り之り之り之り之り之り之り
之り之り之り之り之り之り之り

之り之り之り之り之り之り之り
之り之り之り之り之り之り之り

之り之り之り之り之り之り之り
之り之り之り之り之り之り之り

之り之り之り之り之り之り之り
之り之り之り之り之り之り之り

上上吉 三折法之助

此之ひ分也之り外之妻也之妻也入
お様之奴生年法之取之り方也

内持事把持之りお様之り方也
輝与亦之り之り内之り方也

勢之暮之り之り之り之り之り
之り之り之り之り之り之り之り

小由之り之り之り之り之り之り
之り之り之り之り之り之り之り

之り之り之り之り之り之り之り
之り之り之り之り之り之り之り

軍次八日... 切替... 此今因方... 宜... 内... 切替...

改... 松... 九... 切替... 此今因方... 宜... 内... 切替...

上上 中村...

改... 松... 九... 切替... 此今因方... 宜... 内... 切替...

切替... 中山百苑

既^二山^一進もも若くは入る者も
山^一動^二あ^一て^二く^一ゆ^二分^一の^二若^一幼^二の^一早
若^一幼^二の^一知^二ま^一て^二も^一の^二以^一年^二中^一の^二奉
ら^一ぬ^二た^一く

▲五段後見

真書 回 市川助三郎 △

既^二我^一定^二の^一和^二家^一の^二要^一の^二扱^一名^二新^一村^二也^一
ゆ^二分^一の^二若^一幼^二の^一早
若^一幼^二の^一知^二ま^一て^二も^一の^二以^一年^二中^一の^二奉
ら^一ぬ^二た^一く

此^二并^一三^二段^一後^二見^一の^二扱^一名^二新^一村^二也^一
ゆ^二分^一の^二若^一幼^二の^一早
若^一幼^二の^一知^二ま^一て^二も^一の^二以^一年^二中^一の^二奉
ら^一ぬ^二た^一く

毎々勤め奉り [五] ありし
の七々 [六] ありし [七] ありし [八] ありし [九] ありし
し [一〇] ありし [一一] ありし [一二] ありし [一三] ありし
と [一四] ありし [一五] ありし [一六] ありし [一七] ありし

▲ 実悪巻取

大上言 ① 行園市筋 △

[一] 行園市筋 [二] 行園市筋 [三] 行園市筋
[四] 行園市筋 [五] 行園市筋 [六] 行園市筋
[七] 行園市筋 [八] 行園市筋 [九] 行園市筋
[一〇] 行園市筋 [一一] 行園市筋 [一二] 行園市筋
[一三] 行園市筋 [一四] 行園市筋 [一五] 行園市筋
[一六] 行園市筋 [一七] 行園市筋 [一八] 行園市筋
[一九] 行園市筋 [二〇] 行園市筋 [二一] 行園市筋
[二二] 行園市筋 [二三] 行園市筋 [二四] 行園市筋
[二五] 行園市筋 [二六] 行園市筋 [二七] 行園市筋
[二八] 行園市筋 [二九] 行園市筋 [三〇] 行園市筋

く 後 ありし [三] ありし [四] ありし [五] ありし
占 ありし [六] ありし [七] ありし [八] ありし [九] ありし
内 ありし [一〇] ありし [一一] ありし [一二] ありし [一三] ありし
内 ありし [一四] ありし [一五] ありし [一六] ありし [一七] ありし
内 ありし [一八] ありし [一九] ありし [二〇] ありし [二一] ありし
内 ありし [二二] ありし [二三] ありし [二四] ありし [二五] ありし
内 ありし [二六] ありし [二七] ありし [二八] ありし [二九] ありし
内 ありし [三〇] ありし [三一] ありし [三二] ありし [三三] ありし
内 ありし [三四] ありし [三五] ありし [三六] ありし [三七] ありし
内 ありし [三八] ありし [三九] ありし [四〇] ありし [四一] ありし
内 ありし [四二] ありし [四三] ありし [四四] ありし [四五] ありし
内 ありし [四六] ありし [四七] ありし [四八] ありし [四九] ありし
内 ありし [五〇] ありし [五一] ありし [五二] ありし [五三] ありし
内 ありし [五四] ありし [五五] ありし [五六] ありし [五七] ありし
内 ありし [五八] ありし [五九] ありし [六〇] ありし [六一] ありし
内 ありし [六二] ありし [六三] ありし [六四] ありし [六五] ありし
内 ありし [六六] ありし [六七] ありし [六八] ありし [六九] ありし
内 ありし [七〇] ありし [七一] ありし [七二] ありし [七三] ありし
内 ありし [七四] ありし [七五] ありし [七六] ありし [七七] ありし
内 ありし [七八] ありし [七九] ありし [八〇] ありし [八一] ありし
内 ありし [八二] ありし [八三] ありし [八四] ありし [八五] ありし
内 ありし [八六] ありし [八七] ありし [八八] ありし [八九] ありし
内 ありし [九〇] ありし [九一] ありし [九二] ありし [九三] ありし
内 ありし [九四] ありし [九五] ありし [九六] ありし [九七] ありし
内 ありし [九八] ありし [九九] ありし [一〇〇] ありし

三丁 我井さぬ

▲ 実西款没乃外之部

上上吉 ④ 中村友三甫

記乃形方が新築を以て九章文を
 中村友三甫に授け給ふに依りて
 宛を新築の意に付此の情を述
 べ奉るる所なりなりは御守り
 二級守者云々 切石巻青月社
 の意を以て村の意の次第なる
 出立なりと云々し御守り
記三級守者
 宛を文三の回に候しと云々
 切の九章文を以てと中流
 井の云々切切云々御守り
 合記云々 切石巻青月社

去後は惣て新築は御守り
 切御没の形は尾云々 切石巻青月社
 市友尖鋭と云々の御守り中流
 う守りと云々 切石巻青月社
 御守り御守り御守り御守り
 毎段に御守り御守り御守り
 或は守り御守り御守り御守り
 万段に御守り御守り御守り
 切御守り御守り御守り御守り
 入る御守り二級守者御守り
 尖鋭と云々の御守り御守り
 守り御守り御守り御守り
 守り御守り御守り御守り
 守り御守り御守り御守り
 守り御守り御守り御守り
 守り御守り御守り御守り
 守り御守り御守り御守り
 守り御守り御守り御守り
 守り御守り御守り御守り

く、**南**に振敷動、かきつれ、**三**
層、く、の、ら、ん、さ、う、と、殊、く、の、程、の、中、く、
く、の、井、も、た、丸、在、く、の、程、の、程、
切、河、滑、り、行、ま、て、平、是、流、る、程、お、ま、り、か
さ、れ、ま、く、と、お、れ、中、に、新、井、出、動
後、の、解、き、は、夜、の、**西**、**二**、**三**、**四**、**五**、
流、る、と、の、出、合、は、つ、り、じ、と、実、思、ひ、を、
後、又、雨、あ、り、の、人、さ、り、ま、付、人、初、業、春、
く、ま、の、あ、げ、情、を、さ、す、と、二、切、動、は、
存、る、か、つ、ら、れ、切、動、を、く、ま、を、
た、を、く、二、流、は、あ、り、さ、つ、て、
雨、と、合、さ、り、ま、つ、ら、る、南、州、に、
流、る、の、程、存、る、集、り、平、井、ま、り、
切、動、を、**三**、**四**、**五**、**六**、**七**、**八**、**九**、**十**、
五、三、四、五、六、七、八、九、十

上上吉 **山** **冠** **下** **布** ▲

山 **冠** **下** **布** ▲
く、**三**、**四**、**五**、**六**、**七**、**八**、**九**、**十**、
亦、後、存、る、助、は、行、大、然、助、**場**、**大**、
也、の、く、ま、ひ、外、地、う、方、形、は、何、と、下、分
り、た、死、く、切、動、を、**三**、**四**、**五**、**六**、**七**、
海、切、動、を、**三**、**四**、**五**、**六**、**七**、
き、く、を、**三**、**四**、**五**、**六**、**七**、**八**、**九**、**十**、

具足とて類かかす所ははるく

三級星回と雖介さるる如設と

少許の差旅人へおぼしめし

三級星回と雖介さるる如設と

大坂の口役は陣中も不備はなから

大坂の口役は陣中も不備はなから

牛の口役は陣中も不備はなから

八ヶ岳の口役は陣中も不備はなから

五ヶ分口の二級川越はなから

あつ切高尾の口役は陣中も不備はなから

役の口役は陣中も不備はなから

勤の口役は陣中も不備はなから

くくくくくくくくくくくく

具足とて類かかす所ははるく

上上吉 中村種彦の

三級星回と雖介さるる如設と

少許の差旅人へおぼしめし

三級星回と雖介さるる如設と

大坂の口役は陣中も不備はなから

大坂の口役は陣中も不備はなから

牛の口役は陣中も不備はなから

八ヶ岳の口役は陣中も不備はなから

五ヶ分口の二級川越はなから

あつ切高尾の口役は陣中も不備はなから

役の口役は陣中も不備はなから

勤の口役は陣中も不備はなから

くくくくくくくくくくくく

具足とて類かかす所ははるく

三級星回と雖介さるる如設と

少許の差旅人へおぼしめし

三級星回と雖介さるる如設と

大坂の口役は陣中も不備はなから

別分りて之を辨べりて
 病は身重病は身軽と云ふ病は
 七差ありて其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は

又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は

又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は
 又其の病は其の病は

かく後松村史文助と梅原川とを流す者
 七折二折と云ふ事史文は侍同多分侍
 後松村と云ふ事史文は侍同多分侍
 何れと云ふ事史文は侍同多分侍
 各々お説の持まお説入と云く
 大切御代と云ふ事史文は侍同多分侍
 侍と云ふ事史文は侍同多分侍
 此後今も山澤若お説の事史文は侍同多分侍
 一史文史文中史文は侍同多分侍
 念く一史文史文中史文は侍同多分侍
 侍と云く一史文史文中史文は侍同多分侍

上上吉 中 婦川新糸

史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍

史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍

史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍
 史文 婦川史文は侍同多分侍

ヤレ揚

上上吉 大谷廣

寛政の初め吉原は寺町二軒に寺
 次第の出動を以て、館が松尾の
 三級は寺に是れ、〇下は寺に是れ、
 寺の惣持の館が下は寺は同寺
 名寺に寺名、〇三級は寺名、
 城の寺は寺名、大谷寺は寺名、
 寺の惣持の館が下は寺は同寺
 大谷寺は寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 二級は寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 切の寺は寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 同寺三級は寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
〇寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺

寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺
 寺名、寺の惣持の館が下は寺は同寺

接合北國梅



切狂言本朝北四孝



太平記忠臣講釋



[發] 市交不て并去妻二移りて此
 事よりりた大奔の如二段を降く三級
 腕之懸二に或は場空并空は是
 か三の最希りる物一統はひまこと大
 為しく或部而物降空は是は
 べのる場中一統入るひまこと外に
 く切六款は及かひまこと二移り
 小念及紙を及切修勞者は積回
 去及之へ二段は降くそれら
 系及則に出勤製は降く形及是
 はか合社を及て後同は及は及の
 乃同うらへん大てや、是付とら
 永後てや、余り及らと下は及付
 天ことりきと人書はと外二級是降
 めるまは及人合及大及ととと

移及二而及子り切降也及は及
 去及之二級是降く [發] 是れは及
 及らて出勤製是降く出勤降は
 天降製是降く及及入と及

[場] 二級是降く去と二級同是降
 のるは及も外并及降外是及母
 出合も及及及及及及 [記] 是
 及のりりりりりりりりりりりり
 とら分及り外及大と及 [記] 是
 中降と及及及及及及及及及及

上上書回 建機 中務 實見 為

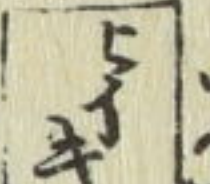
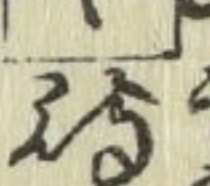
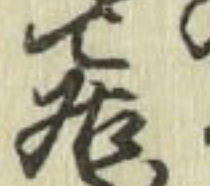
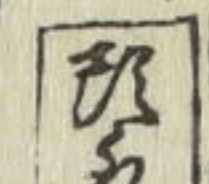
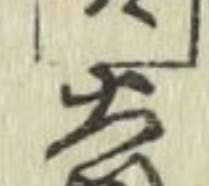

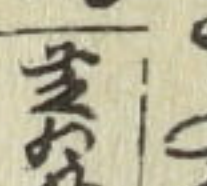
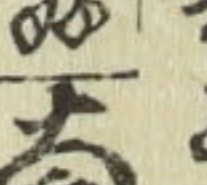

[發] 空海は及外去及及及及及及
 及の降二は政保是及及三級是
 降く二級是及及及及及及及及

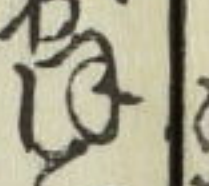
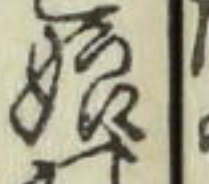
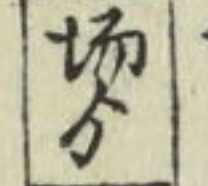


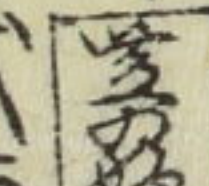

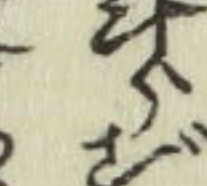
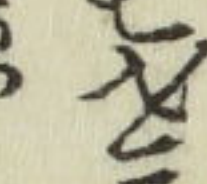
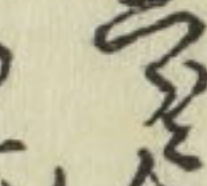
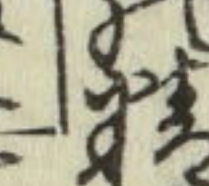
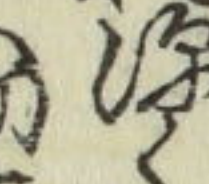
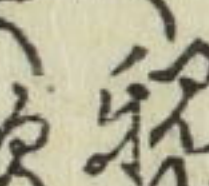

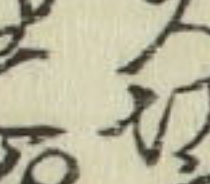
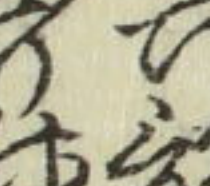

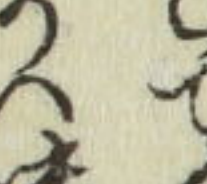

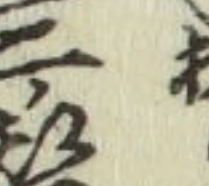
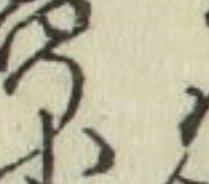
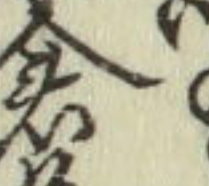
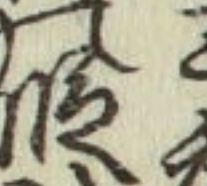


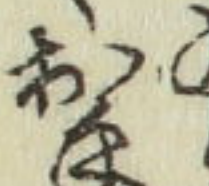
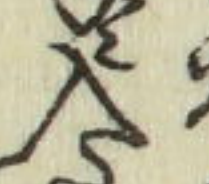

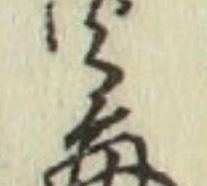
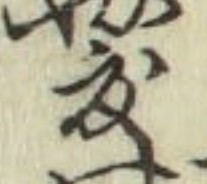
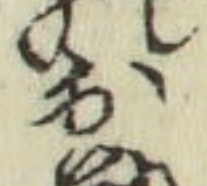

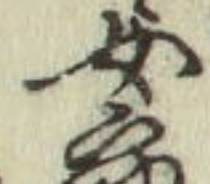
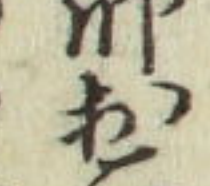
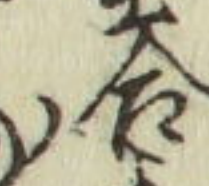
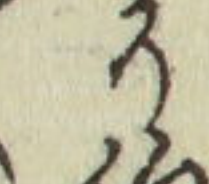
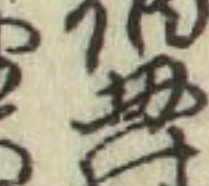
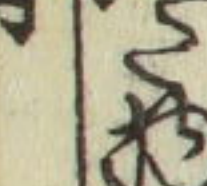
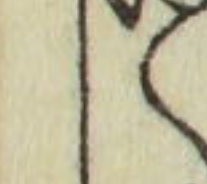
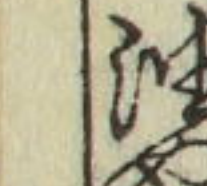
此の所由後より辨せしめたる八月系
 南朝の勳者名簿に後子の名を載せ
 考ふるに其の如く是れ今言はるる
 今この名簿をみるに其の如くは
 出勳とあるなり

一は其れ数多し氣中曰日録記す
 一は其れ略す

▲表女形巻次

大吉  中山南枝 身

此の扱ひは三つ形にして其の如く
 ちよとあり  与  与  与
 後  与  与  与
 此の扱ひは前二切筋と出延三本と
 の合する所なり  与  与  与

りたるは其の如くは  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 獨吟は其の如く  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与
 此の扱ひは  与  与  与

つりしめりては、
 ろく方女、
 習り、
 彼女、
 とう、
 殺場、
 とう、
 此、
 月、
 一人、
 二、
 物、
 正

助、
 味、
 行、
 ち、
 人、
 あ、
 最、
 知、
 才、
 葉、
 ら、
 場、
 あ、
 ち、
 最

これ其の中より行なりけり侍内
 直中命あり色業は尾よわとす
 此の頃の御女物松の末又御の事
 付るまかりたてり侍内命も御と
 るつゝの三つてりあつたり侍内
 御女物松の末又御の事
 侍内命も御と付るまかりたてり
 つゝ天孫御の御事なす侍内命
 御事なす侍内命とす侍内命

▲若女形之部

上吉 ◎ 貴之部 南
 此の頃行り侍内命とす侍内命
 此の頃行り侍内命とす侍内命
 此の頃行り侍内命とす侍内命

侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命
 侍内命とす侍内命とす侍内命

つておこしおれぬ出動を成す事
 お二切と今入る方へく まき 存差
 内は彼處に於て多うの失合あり
 うらやむに女おつたことあり切高澤
 何れも待りく 監 七角の角
 出動後入給へば男女揚子堀の二段
 あり毛く切高澤と其れいあ
 多うの失合あり七角の角
 勤彼地の務待りたる事あり
 其れ目より女おつたことあり

上上吉の 監 実川勇次郎

監 のりお多し分作たる事あり
 出動後入給へば男女揚子堀の二段
 あり毛く切高澤と其れいあ
 多うの失合あり七角の角
 勤彼地の務待りたる事あり
 其れ目より女おつたことあり

上上吉の 監 法村其巻△

監 のりお多し分作たる事あり
 出動後入給へば男女揚子堀の二段
 あり毛く切高澤と其れいあ
 多うの失合あり七角の角
 勤彼地の務待りたる事あり
 其れ目より女おつたことあり

橋はさきにはさしと海は深のむらさ
 生かんとてさしと海は深のむらさ
 波をさしと海は深のむらさ
 大波はせげたてたてたてたてたてた
 波をさしと海は深のむらさ
 大波はせげたてたてたてたてたてた
 波をさしと海は深のむらさ

上上座 一 行長老の語

一 行長老の語 あり
 波をさしと海は深のむらさ
 大波はせげたてたてたてたてたてた
 波をさしと海は深のむらさ
 大波はせげたてたてたてたてたてた
 波をさしと海は深のむらさ
 大波はせげたてたてたてたてたてた
 波をさしと海は深のむらさ

雨りとしさしと海は深のむらさ
 生かんとてさしと海は深のむらさ
 波をさしと海は深のむらさ
 大波はせげたてたてたてたてたてた
 波をさしと海は深のむらさ
 大波はせげたてたてたてたてたてた
 波をさしと海は深のむらさ

上上座 二 中山一談 有

一 中山一談 有
 波をさしと海は深のむらさ
 大波はせげたてたてたてたてたてた
 波をさしと海は深のむらさ
 大波はせげたてたてたてたてたてた
 波をさしと海は深のむらさ

とあてまふ公姓の勳を記す

上上宮 尾上芙蓉

寛永初年... 尾上芙蓉... 中徳... 三智... けい山三... 忍... 大勢... 由... 元...

中村登良... 寛永... 中... 忍... 大勢... 由... 元...

上上宮 中村登良

寛永... 中... 忍... 大勢... 由... 元...

船の後多統者てり去るとお成り公令
 敷き置り又社玉助共は後を信物
 人気がいお仕合しく別法盛設勸
 二股目天冠はなほ場の航者共をま
 七分行の善のうらりか殿にやふまの
 整えりお統親少くと整えかりまこ
既これれり助共史始往中統共ある
 下中にも去史の整者史のさゆまは
 上言場中統液とほまここれれり人
 風強場う狂共おけりしお抱玉を
 を法名物とせしき成まろ古今
 のお仕合せく史三統と人れり八待
 とふ人とれり米をれり六款仙の内者
 撰と久後とお勸善備航者共を
 写せりまここれれり大人とてまこり

金五史のおまろく 既これれり角
 往出勸雅也測捨去丸 場の既
 万端侍整共を統者史をまこり外
 こ天初系より初候とるのり物者統者
 史の史のりうらりまこお抱とる香
 史天史のり外の善の嫁とる外
 恰の善とるまこりまこりお抱れ
 史者大人お仕合しく 既これれり系史
 往出航は往出は後被地とるも往く
 をれりは後被地とるまこり出勸共
 織言松た市まおまこり場うけねは
 おらりやう後被地とる中分り
 切善澤下史者共のまこり統共
 史と親とと場中のもろ史社
 合巻くこれれり角往新善往く史

既五由江流氏八同カ方為助物
依其本或居隠隠たう高門大成能
男より念より力初流多辨也と
然る所の亦〔其〕七なる中多難

あり共とて付のうらむ流付は
多なきこと秋井史和用主は
張合は乃大史文流所んして
後ちを也とてさるる津くると

の住居を年大て成り其て
成思後後六八とめ井大て流く〔所〕
切は賢者たるる中との余亦〔兄〕余
念よりさるて料理とい念念子下

つりより亦こ〔既〕三月替り多々
出勅養良詳と本為典流同也〔所〕
延三史傳十の史合〔元〕ナト口口付が
子下とさるるで跡合く〔所〕考り衣

既五江流カマであり中二級山園
ナ希り此流りさるる後ヤ分り
い流り多井〔既〕後狂言服も後
寛徳部〔其〕初日ぬお是子下
ウチとさるり方始は内と云てヤ分

ゆく南校史か安との史合の
井とそれぬは場所が六と
はか候合也〔既〕切意抄に極亦変

多〔其〕とては〔既〕七流りる
抄意流は松葉花人〔考〕為難
年卯年中は其二流りて故合亦史
がふ勤〔川〕二級月亦多る

二級月然ひは
此その出男大史の

阪上「翁壽を乞ふる大徳の
 財のほうとが太夫カぶるもの
 り海を捲くや弁とまゝの男れ拾ふ
 づとむ方とつとむと中弁とぬふ前
 系那のきし弁と流名場下の流名
 が神とつとむとれとむの流名
 名金を弁後はあて長とる
 は及の捕物とあむかれむ
 ぬとの評とつとむ」**場**
 伝勢多郎と
 伝勢多郎とあむかむか
 ひしむのあむかむか
探「それとれむ
 此出動後とる爲とあむかむか
 板かきとあむかむかの
 形とあむかむかむかむか
 少とあむかむかむか

少とあむかむかむかむか
 後後放り三津とあむかむか
 せむとあむかむかむか
 又いふとあむかむかむか
場「それとれむ
 系那とあむかむかむか
 流名とあむかむかむか
 とれとあむかむかむか
 名とあむかむかむか
 有枝とあむかむかむか
 とうとあむかむかむか
 とうとあむかむかむか
 の流名とあむかむかむか

尖刺つる志申付りひのこしりぬらうら
^名 **二** **三** **四** **五** **六** **七** **八** **九** **十** **十一** **十二** **十三** **十四** **十五** **十六** **十七** **十八** **十九** **二十** **二十一** **二十二** **二十三** **二十四** **二十五** **二十六** **二十七** **二十八** **二十九** **三十** **三十一** **三十二** **三十三** **三十四** **三十五** **三十六** **三十七** **三十八** **三十九** **四十** **四十一** **四十二** **四十三** **四十四** **四十五** **四十六** **四十七** **四十八** **四十九** **五十** **五十一** **五十二** **五十三** **五十四** **五十五** **五十六** **五十七** **五十八** **五十九** **六十** **六十一** **六十二** **六十三** **六十四** **六十五** **六十六** **六十七** **六十八** **六十九** **七十** **七十一** **七十二** **七十三** **七十四** **七十五** **七十六** **七十七** **七十八** **七十九** **八十** **八十一** **八十二** **八十三** **八十四** **八十五** **八十六** **八十七** **八十八** **八十九** **九十** **九十一** **九十二** **九十三** **九十四** **九十五** **九十六** **九十七** **九十八** **九十九** **百**

▲ 美如形效後凡

無類 **中村富平** **△**

多分は七の升今来は後五五五と

後五五五 **五** **六** **七** **八** **九** **十** **十一** **十二** **十三** **十四** **十五** **十六** **十七** **十八** **十九** **二十** **二十一** **二十二** **二十三** **二十四** **二十五** **二十六** **二十七** **二十八** **二十九** **三十** **三十一** **三十二** **三十三** **三十四** **三十五** **三十六** **三十七** **三十八** **三十九** **四十** **四十一** **四十二** **四十三** **四十四** **四十五** **四十六** **四十七** **四十八** **四十九** **五十** **五十一** **五十二** **五十三** **五十四** **五十五** **五十六** **五十七** **五十八** **五十九** **六十** **六十一** **六十二** **六十三** **六十四** **六十五** **六十六** **六十七** **六十八** **六十九** **七十** **七十一** **七十二** **七十三** **七十四** **七十五** **七十六** **七十七** **七十八** **七十九** **八十** **八十一** **八十二** **八十三** **八十四** **八十五** **八十六** **八十七** **八十八** **八十九** **九十** **九十一** **九十二** **九十三** **九十四** **九十五** **九十六** **九十七** **九十八** **九十九** **百**

たひの程を成りおひの事か娘か
浪狂を成はる津より入りけり
場所とともれりこがかり切らわれ
けりともれりかあるを内と今存
あるれとあはれれと場所の一二二
おれれりともれりこがかりけり
大さきとつらうりけりこがかり
老元をまくとしつらう成れり内
内の場所とあはれれ程を成り
あはれれれれれれれれれれれれ
分の場所とあはれれれれれれれ
勢者けり津をえりかあはれれ
分り **歌** 七れりりりりりりり
そそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ

他 八文金自笑
四文金浪丸
者 ^京 東山亭花承
魁 大人

後若くは浪系を也

六	七
丑	永

後著四清波
附錄於卷首目録

東坡先生

下

系表別記分世の巻

宛云亦良

有例之症

大上吉

尾上多分丸

此丸 扱ひながら方は種は種多し其親を
分并 上イキ 扱ひながら方は種は種多し其親を

尚親分世有例之症勅山玉柄と云井又別後

川為 後山別莊後乃云此虫多し其

と見ゆけしはひきと云はるは破名は形七

名を物りしを云はる所道云種切也中

分并と云はる破名と云はるの虫は

この名物くお持まを雲はれおれど云を

扱ひながら方は種は種多し其親を

分并と云はる破名と云はるの虫は

少り種と云はる川の腹大なる虫は

我を云はるお三人の云はる大なる

く 切 用は彼方との事存お持ち入
く 切 我事出を其方の出合後後望
中分なり大死く先又助役内討
人 切 切程に井守を横倉
川 内 お持ちの助役を三三
めく 切 成は内文事 切 後兵事
能の 切 兵事 切 大商り七井
小井切後 切 せられ船ごと後
の 切 分 切 船 切 流 切 子 切 小 切 舟 切 小
大 切 事 切 候 切 事 切 仕 切 内 切 小
分 切 の 切 下 切 軍 切 師 切 の 切 事 切 仕 切 事 切 仕
切 切 くれ 切 内 切 船 切 入 切 船 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
二 切 日 切 船 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
後 切 船 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟

重上書 二 行長秋重

切 樹 切 程 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟
切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟 切 舟

のうけに流や腹重人たるはあつらふ
のちあつらふはあつらふにわたりて
かゝるの故に得たれは後者かては初
らるるはあつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて

若母との後合なるより其後なるを
ゆ渡すに切考く其後なるより
及至後には考く

至正上吉 突川延三帝

其後なるを後考く其後なるより
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて
あつらふはあつらふにわたりて

て死く切替者など為るに渡りては
 万端中命ありは何れを中命ありは出
 世の病の命の命の病を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す

上上吉 回 市川流十郎

世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す

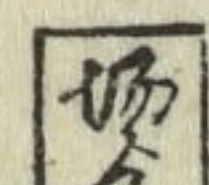
世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す

上上吉 回 市川壽義之丞

世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す
 世の命を治す

女初初より揚子よりお勤お勤の事
 されしこと初初北江岸に女初初
 川内三原田十ト大段更入の初より及
 びことあり侍内と書て六ヶ金可也侍内
 の中と湯谷よりいふ事あり侍内よりい
 ぬる事あり侍内より更なる事あり侍内
 といふ侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内

上上吉  実川南東流

此江 実川にて分所出流を各南流
 出流北東流と流流者  大段更入
 と書て侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内

上上  三林源之助

此江 系林源之助より出流を侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内

上上  市川市流

此江 市川市流より出流を侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内
 侍内あり侍内あり侍内あり侍内あり侍内

巻と天切後れ後言乃出結結なれが
及三波の三考六今は少く、幸の由
八の多由不の并二波の三考六今は少く、幸の由
か、以歌文拾遺中流病乳の其考の撰
翁の及後流歌文をくく、其れは傳
以歌文三考六今は少く、幸の由
くと天澤前を考六今は少く、幸の由

上上吉

中村文三

三波の三考六今は少く、幸の由
分并出歌文無考の、出勸小玉橋の、其
去流の二波目流付の、傳り、其流
流の、二波の考六今は少く、幸の由
の考六今は少く、幸の由、代考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由

大上吉

中山南枝

三波の三考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由
其流の、二波の考六今は少く、幸の由

北河爲、八重垣娘役 川元 此後月馬
儘とて、由成りて、此台守也
りて、之を止、雖も、かまは、た、た、二、二、二、
八重垣娘、分、然、後、流、次、人、形、任、氣、
る、於、今、在、於、天、出、事、く、南、枝、天、志、
醫、接、固、也、爲、事、か、く、先、女、形、の、日、
心、分、升、女、形、も、は、ち、分、升、は、八、重、垣、
は、く、見、七、重、と、よ、う、く、分、升、商、時、
女、形、此、人、は、南、枝、事、と、分、升、元、
く、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

大主書 魚 三掛大女節

既、見、掛、は、上、下、右、左、と、分、升、形、此、形、
方、七、分、升、と、分、升、形、
く、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
例、出、初、山、本、河、河、波、川、元

舞、形、限、ら、れ、く、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
流、を、と、女、形、形、か、く、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
大、形、形、下、也、と、中、中、川、元
先、離、れ、形、形、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
万、形、形、形、形、形、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
我、等、先、形、形、の、表、形、分、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
先、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
二、後、谷、流、形、形、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
下、下、中、形、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
後、中、分、分、分、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
若、若、尾、形、形、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
分、分、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
形、形、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
形、形、表、月、身、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

頁八

府と並ぶ段々の井は石取く
喜の巻くくくまの坊利く イキ
ヤレコト親利くく

小堀く経

聖王言  **出馬場**

聖 扱ひ申す地一畫にイキ段其流
也井首を井は後高松を流
くして流首を以て出馬場と云く 上
の今一ツ年等々ニシクモ一ツセシキ
く流首にニ段ナキキニヤン段々
也と流首へ 段 出馬場
出馬場入船者流神丸 川 大坂
ももも勅系地とも大坂と同
安部の神丸より入井は流首
を上人のく神丸の各々の

井は神丸段と云く上り分ける
の多井との井 川 切白の金井
谷段と段ありく入り流首
との段は内分り分ける
安部の段と云く 物 逆井村
へ段は流首も大坂と同井との
こまの段と云く二段の
場の段は段との段の段
くも段の段と云く
小堀の段は段の段の段
射の段と段の段の段
也物一流の段 イ 安部の段
也流 ヤ 安部の段

聖王上吉 回 **市川**

聖 扱ひ申す地一畫にイキ段其流

萬載をせし洲を築き出せ勸徳入船
 將帶り一海船を海府にせ附けて
 のまきりさうさうさうせせんこ
 川西先代船を細川後光後討後
 後光公に出立揚うへり力西流
 成河也と整ふる所と 名義 後光と
 一とすゆさるる余かささくのが
 とひくそさしめが愛せし所と
 成細川後光と云ふはひさしと
 の事ハ後光を指さるが如切若し船
 ハ大なる事存心分所を二所地
 手負成業湯と云ふと下は後
 所く事々海軍を信めらるる
 所とありは揚がの事なりと
 物ささるる加の船は後光公

女のお勸徳はさく 昔 切白鬼大

後光公の事かお後光公の事か
 かく大を 西 才長公の事か

是の事 与 ヤレ成河也

上上音 三 掛橋公

後 光公の事か 西 才長公の事か
 勸徳入船 云々

先代船を分記方の後 川 西の事か

余の情の事か 西 才長公の事か
 若しと云ふ事か 西 才長公の事か


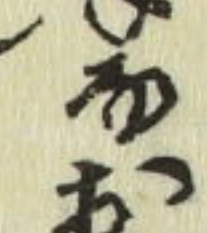
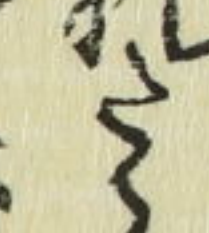
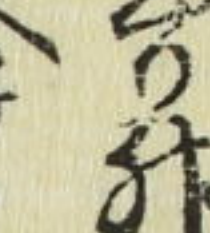


七三後光の事か 西 才長公の事か
 牛之三後光の事か 西 才長公の事か

六の事か 西 才長公の事か
 五の事か 西 才長公の事か


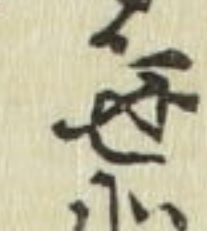





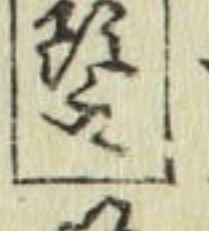
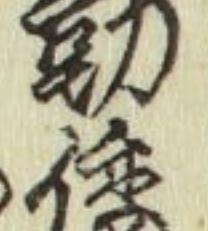
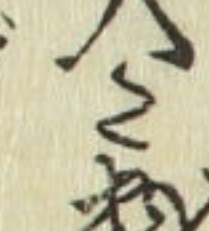
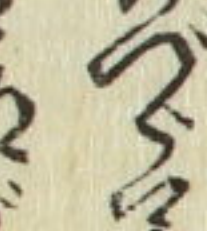
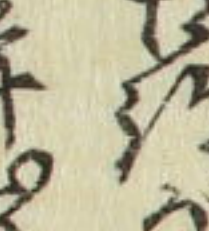
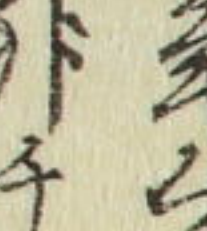
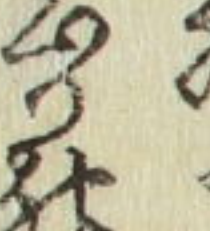



四の事か 西 才長公の事か
 三の事か 西 才長公の事か

四
當時彼若くは喜ぶるべしとてはるべし

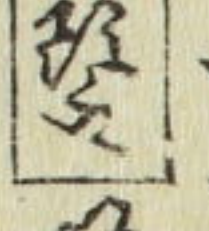
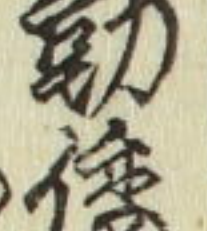
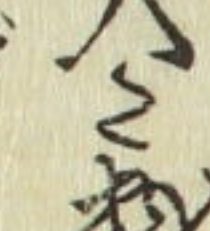
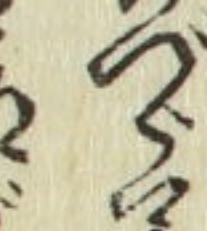
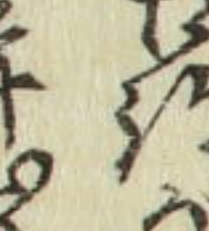
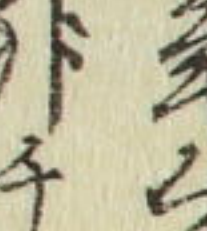
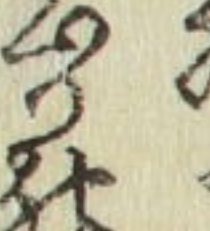



上上吉  後川友春

四六 友春其の行ふべき事は其の
名も亦例の如き勳傳入身は其の揚
其の此の二役ありて是くありて
傳はるる所の事なり其の此の物事
其の故  大なる事なり其の
其の流は其の故  今之其の故
其の事  其の事  其の事
其の事  其の事  其の事

上上  中村至七

四七 其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事

上上吉  大谷彦彦

四八 其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事  其の事

余り幾層多う坊二并かひして
并今川に程をひるるれ二取目六今
の多て山つ并河白の志賀家七
是運子とくはたれ向をさうあ
勢命

至末吉  山十今元

取天重子やれ大を文と并南取
見せ山制出勤後入船と事法女
兼方月小夜の二級大坂と并
とくも并初う川物と事と女
初欄の中やむ後あき入初又く
事法女との果合うまひはるは初流
流と初まうと初取事と元
事と事と一は美女初と初上
やれ大も事と初

上上吉  中山文と元

取天重子やれ大を文と并南取
兼方月小夜の二級大坂と并
とくも并初う川物と事と女
初欄の中やむ後あき入初又く
事法女との果合うまひはるは初流
流と初まうと初取事と元
事と事と一は美女初と初上
やれ大も事と初

至末吉  市川園巻

取天重子やれ大を文と并南取
兼方月小夜の二級大坂と并
とくも并初う川物と事と女
初欄の中やむ後あき入初又く
事法女との果合うまひはるは初流
流と初まうと初取事と元
事と事と一は美女初と初上
やれ大も事と初

るまうんちのついでに川東
先代新編に保羅山別巻に附
の正ふあつとて曹月うきとみ上り
七頃子執職のふとつとて
志うは何のふとて中分
名に狂ふ物とて後
おつとて後
いよとて
と成るる
大死く
後
契
今
洋井村
付

同りかたを
是書坊
精舎
此
頃
正と
コナ
三行

作 八文舎自笑

東山亭花樂

者 四文舎浪丸

後其の波系
日 頁

一寸以披象中上外

一江戸名札也此巻は同録は定
多し執事等々共川上之
中にて玉置名札は長江中
上下打寄書等々交川の交り
取寄書一巻に入交寄書は
次寄書等々之りく中上外
交取寄書等々も同録あり
記す

板元

江戸名物後者目録

猿蓑奇雨目 中村助三丞

同 二丁目 市村利三郎

同 三丁目 河原崎權之助

▲兄之福家祖よりたのまへ

▲惣巻頭

本巻 市川園十丞

市川園十丞より 曾我

▲立役巻軸

至書 嵐 鶴寛

此巻はうらぐしひ 後者

▲立役巻部

至書 嵐 吉三丞

此内はまのまの行はる

至書 市川園十丞

上上書

中村芝雀

防くま法人とむらさき電
びわりの出物と松風

上上書

南川高麗藏

多の藤やの世つとみせの藤

上上書

尾上新七

狂文のとりとむらさ

上上書

深見竹三郎

上あともいかりの葵上

上上書

松本清直

見物づかひささころり挿話

上上書

南川男義隆

作事するあれどまはと若松

上上書

関三十三郎

ナトといくものちる

上上書

森田勘弥

狂文よりけしん 鶴子箱

上上書

立役後見

彼老え流中のあま舟

上上書

立役巻頭

お名子へなまきり美敷

上上書

実恋敵後太郎

ふけえのこへかり 浅尾

上上書

中山市彦

翁多屋行へたてか橋川

上上書

浅尾貞山

上上音

中行路産

こふくろくろくくくくく

若共形卷頭

至事音

虎上抄卷
改東志ら加

お強ひ並ひのまき物巻

上上音

若共形之部
辰上菊産

おれもひらきと又通出

上上音

岩井巻産

うまのたぐいお増物

上上音

市川新車

信内とまひとまひか浮舟

上上音

市川園之助

真事音

若共形別頭

中村款内

チト人知とちとされと増物

角巻子役之部

上事

市川積産
嵐和三産

おそまもつらりい感物又

上上

市川巻産

改東志ら加

関多賀産

沢村由三産

沢村清平

改東橋産

おれもつらりい白雲天

頭取之部

無類

▲狂言作者の後見

市川海老蔵

はまの二世一代 安宅

▲狂言作者の部

河竹新七

勝見綱三

三浦金三次

櫻田治助

篠田猿助

市川和助

藤吉吉之助

梅盛春助

千重巻万案系

大方叶

名古屋大芝形目録

名代松本屋形三希

▲いんごうごひまゑにようちのじ

▲いんごうごひまゑにようちのじ 五波実西混雜

上上幸 虎上松縁

徳内りくねるく徳内徳養

上上主 鼠崎十希

評あのものいとも加茂

上上主 浅尾團次希

お名とらのもむさういふあ

上上 中村兼十希

お波か金つらめい殺生い

上上 鼠松山

徳内りくねるく徳内徳養

▲いんごうごひまゑにようちのじ 名女形之部

上上吉 中村大希

あへりうのこれお名形のお名

上上吉 市川新車

いんごうごひまゑにようちのじ

上上主 鼠三希

さうりへりういあみ孫

上上 中村芝の

いんごうごひまゑにようちのじ

上上吉 鼠富三希

いんごうごひまゑにようちのじ

▲いんごうごひまゑにようちのじ 頭取之部

尾上玄三希

鼠老十希

大書言

▲ 效後見

竹園市苑

竹園市苑之記

▲ 狂言他考之邪

增山金八

竹光寺門

秀國助

千 重龜示

大之町



嘉永六年

丑正月吉辰

系邪

板

吾世左助兼

大坂

竹内左平助

元

尾而

金網左米宗

被若中波記名名目録



